

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | | | |
|---------------|---|-------|------------|
| 事業所番号 | 4070703022 | | |
| 法人名 | 医療法人 権頭クリニック | | |
| 事業所名 | グループホーム もやい | | |
| 所在地 (電話番号) | 福岡県北九州市八幡西区竹末1丁目10番15号 (電話) 093-644-2257 | | |
| 評価機関名 | 財団法人 福岡県メディカルセンター | | |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年10月23日 | 評価確定日 | 平成22年1月13日 |

【情報提供票より】(H21年9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------|--------|-------------------------|
| 開設年月日 | 平成17年4月1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 17 人 | 常勤 | 14人, 非常勤 3人, 常勤換算 12.2人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|--------|-------------|
| 建物形態 | 単独 | 新築 |
| 建物構造 | 木造 | |
| | 2 階建ての | 1 階 ~ 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|----------|----------------|-------|---|
| 家賃(平均月額) | 40,000 円 | その他の経費(月額) | 円 | |
| 敷金 | 有 (円) | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有 (円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | 1,000 円 | | |

(4) 利用者の概要 (9月10日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 0 名 | 女性 | 18 名 |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 6 名 | | |
| 要介護3 | 6 名 | 要介護4 | 2 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 79.8 歳 | 最低 | 77 歳 | 最高 | 95 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 協力医療機関名 | 権頭クリニック、新日鐵八幡記念病院、正和中央病院、たかむら歯科医院 |
|---------|-----------------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地に立地し、すぐ前の竹末公園の木々草花が四季折々の彩りを見せている。公園は入居者の安全な散歩コースともなっている。「その人らしく、あるがままに」の理念を掲げ実践に活かし、入居者のそれぞれの思いや会話を大切に、一人ひとりの生活に合わせた配慮と対応が行われている。入居者全員が女性であり、「その人らしいおしゃれを楽しむなど、女性らしさを大事にして過ごしていただく」ことを積極的に支援し、家族の願いや思いを組み入れた介護が行われている。入居者と家族の同意を得て小型犬2頭を施設内で飼育しており、動物とのふれあいにより入居者の心身のやすらぎが得られるよう図っている。また、地域行事にも積極的に参加するなどの支援が行われている。入居者の潜在能力や残存能力の向上を目的とした働きかけを職員は日常的に行っている。朝・昼・夜の3度の食事は入居者と協同で手作りしている。出来立ての食事を一緒にいただき、入居者の表情の明るさと、その人らしいおしゃれを楽しめる環境の中で入居者は満足そうに過ごされており、家族との話し合いも大切に行っている事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|---|
| 重点項目 | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員との理念の共有、理念に基づいたケアの実践については、理念である「その人らしく、あるがままに」を大切に実践している。特に力を入れている地域との交流や活動については、市民センターの行事参加や「ホーム便り・もやい」を置かせてもらう働きかけ、公園清掃や子供達との交流、体験学習の受け入れなど、地域に密着した活動に取り組んでいる。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>関連施設との人事交流による管理者の交代や職員の交代があり、改善計画シートについては作成されてなかった。自己評価の取り組みの事実についてはミーティングの場で全職員に周知されている。継続的な課題への取り組みについては、職員の異動等の理由で職員一丸となって取り組めていない部分もある。</p> |
| 重点項目 | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議メンバー19名、地域包括支援センター職員、竹末市民センター長、町内会長、民生委員、家族代表者、施設管理者、計画作成担当者などで構成されている。偶数月に行われ、8月は第2金曜日、10月は第3木曜日に開催された。入居者の状況や現在取り組んでいる状況を報告し、メンバーからの意見や助言は運営に生かされている。住民の方々との馴染みを目的として市民センターの行事に参加したり、運動会の応援に積極的に出掛けるなど、地域住民と触れ合うことを支援している。</p> |
| 重点項目 | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族からの意見は大切に対応している。直接の窓口は「もやい」の職員や管理者で、まずお話を伺い、ミーティングで職員に周知されている。苦情、不安への対応は、GHもやいの代表者(施設長)に報告し、直接面談の時間を予約後、解決に向けた話し合いがなされている。また、毎月社会福祉協議会より派遣される相談員と月1回の相談日に入居者の部屋で個別に面談することができる。個々の対応が適切になされ、家族の意見は記録として残され運営推進会議に報告したうえで運営に反映されている。</p> |
| 重点項目 | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に参加し、「もやい便り」を回覧している。地域の方々からホームの見学をお誘いしたり、小学校行事に参加、山笠の飾りづくり見学や神社のお祭りにも参加している。また、中学生の職場体験学習を受け入れ、学校からは車椅子を寄贈され入居者が使用している。短期ショートステイの受け入れも、空きベット利用で条件的に合致すれば対応できる。買い物や散歩では、地域の方々からあいさつや温かな声かけが行われ、ホームを囲む近隣地域と良い関係が保たれている。</p> |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|--|-----|--|
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「その人らしく・あるがままに」の理念が玄関と勝手口に掲げられ誰でも目にすることが出来る。在宅で生活しているようにホームにおいても安心して生活を継続していただけるよう、一人ひとりを大切にされた個別的な対応を心掛けることにより、日々の介護の実践において理念が生かされている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者と理念を共有したうえで職員は担当制で入居者を支援している。入居者との会話を大切に、その会話の中から一人ひとりの気持ちをくみ取り、個別的な対応に取り組んでいる。朝の挨拶から始まり、生活の場面において、家族の希望やその人のしたいこと、してきたことを大切に、特に優先度や安全性を考慮しながら日々の生活を支援している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 職員も入居者も、地域住民の一員として、神社の秋祭りや市民センターでの行事に参加したり、運動会の応援に出かけたりしている。また、回覧板に「ホーム便り」を出し、研修の参加を呼び掛けたり、ホームの見学をお誘いしたり、公園の清掃に参加するなど、地域活動に参加し、入居者の交流の場を広げている。認知症フェスタに参加し、家族と一緒に「もちつき」をして地域の方に配ったりもした。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | ミーティング時に職員に評価を伝えているが、外部評価のための改善計画シートは特に作成されていなかった。前年度の評価の課題に対する取り組みでは、地域交流について取り組みに力を注いでいる。新人職員については、評価の意義を理解してもらうことや自己評価の課題に対する取り組みが一体的に行われていなかった。 | | 入居者の方々によりよいサービスを提供していけるよう、外部評価の後に課題が捉えやすい改善計画シートを作成することが望まれる。また、職員の交代があっても、次の職員に評価の課題に対する取り組みを継続し、ホームのケアの質を高めていく意義を理解して、管理者と職員が一体となり自己評価に取り組むことに期待したい。 |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回、19名のメンバーによって会議が行われている。運営推進会議ではサービス状況の報告やこれからの取り組みについて協力をお願いしたり、市民センターの行事のお誘いなどがあり、良い関係が構築され、定期的にサービスの向上を目指した話し合いが行われている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|-----|---|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 日ごろから相談し交流する機会を作っている。行事の協力依頼やボランティアの相談、広報誌の設置などをお願いしている。月1回の相談日を設け、職員や入居者・家族が、気軽に相談できるよう、第3木曜日には市から相談員に来てもらっている。また、ホームは「こども110番の家」に指定され万が一の際の避難場所となっている。 | | |
| 7 | 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 地域権利擁護事業や成年後見制度を入居者や家族の方々に、管理者・職員がいつでもわかりやすく説明でき、必要な人には制度が活用できるように、関連施設の華里おひさま園で研修を開催している。研修には一般の方々へ「もやい便り」で参加を呼びかけ、地域の人と一緒に学習している。 | | 管理者や新人職員を含む全ての職員がこの制度を十分理解し、家族からの問い合わせなどに対しわかりやすく説明ができるよう、提供すべき資料の用意や研修記録を作成し、学習資料なども職員が身近に所持するなど、引き続き学習を継続していくことが望まれる。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 8 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月1回、利用者の活動ぶりや施設の行事案内、職員の異動を記載した「もやい便り」を出しているが、行事が重なり作成が出来なかったことがある。入居者の状況報告は、家族に合わせて電話や書面、または面談でも行っている。県外に在住する家族のために、動画を使って入居者の状況を伝える計画に取り組んでいる。 | | 「もやい便り」はきれいにレイアウトされ、写真に写る入居者はとても楽しげである。サービスの質の向上として入居者の様子を動画にしてメールで送ることを計画しているが、中にはメールが見られないご家族もあると思われるので、「もやい便り」などの定期的な案内や報告は途切れることのないように作成されることが望まれる。 |
| 9 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の意見や苦情を大切に取扱っている。窓口として職員・管理者が最初にお話を傾聴している。また月1回の相談日(木曜日午前10時から2時間程度)を設けており、専門の相談員により入居者の居室で相談をすることができる。華里おひさま園の施設長と連絡して、直接面談でも対応している。家族の意見は運営推進会議に報告し、運営に反映している。 | | |
| 10 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 関連施設間での職員の異動が行われる時は、馴染んだ入居者や家族に不安を与えないよう、新人職員に対して、入居者を前々からよく知る職員が付き添って指導している。また、ホームでの活動に支障が出ないよう、入居者の情報をしっかり新たな担当者に伝えている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 11 | 19 | 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の募集にあたっては、性別や年齢など一切条件は設けていない。研修を通して個人の持つ能力を引き出すなど、自己実現の権利が守られている。通院治療が必要な職員がいるが、身体的状況に配慮して無理のない勤務シフトの作成や調整が行われている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|---|-----|--|
| 12 | 20 | 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 管理者の交代等により入居者に対する人権教育は充分とは言えないが、管理者は、入居者の人権を尊重し、大切に処遇すること、態度や言葉遣いに注意するなど、個別に指導を行っている。 | | 入居者と接する職員に対して、管理者は、前任者に引き継ぎ、継続的に人権教育・啓発活動を行うことで、職員の態度や言葉遣いにより入居者の人権を損なうことのないよう、日ごろから職員の意識を高めていくように取り組むことが望まれる。 |
| 13 | 21 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 働きながら学習し、職員一人ひとりの能力が発揮されるよう、国家資格取得を目指す介護職員には、勤務のシフト上でも勉強や試験への配慮をしている。法人内でも研修が計画的に行われており、外部の勉強会にも積極的に参加できるように支援がなされている。 | | |
| 14 | 22 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者や職員は、同法人のグループホームとの行き来はあるが、他法人のグループホームとの相互訪問は行っていない。外部研修では、他の事業所の介護職に会うことはある。他のグループホームと交流を図り、自分の職場にないケアの取り組みや新たな試みなどを学ぶ必要性は認識されている。 | | 3日間ぐらいの体験学習を他法人のグループホームで学ぶなどの計画を立案し、ホームの個別の年間研修計画に入れ込み、そこで学んだことをホームに活かし、入居者へのより質の高いサービスにつなげることが望まれる。 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 15 | 28 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 雰囲気に馴染んでもらうために、入居当初は家族に泊ってもらったりするなど、慣れていただくための工夫をしている。家族との協力により希望を組み入れた対応がなされている。対応に慣れた職員の話しかけによって不安を少しでも軽くしている。入居者が家庭で行っていたことを職員と一緒に言い、少しでも早くホームに馴染めるよう、個別的な支援が行われている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 16 | 29 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 3度の食事の準備を職員と一緒にやっている。一人ひとりの能力と経験を活かして、魚のさばき方や梅干しやらっきょう作り、うどんのこね方・のばし方・切り方、干し柿の作り方・揉み方など、職員ではわからないコツを教わりながら、楽しく作り、喜び合う関係が築かれている。調査当時の昼食では、お好み焼きの具を混ぜたり、巻きずしを巻いたり、職員と入居者が一緒になって作っていた。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1.一人ひとりの把握 | | | | | |
| 17 | 35 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 「その人らしく」を大切に一人ひとりの生活歴や身体状況、家族関係などの情報をアセスメントし、できるだけその人の「その日の思いや気分」を大切に対応している。散歩に行きたい人、人より早く風呂に入りたい人、パットゴルフをしたい人、コーヒーを飲みたい人、買い物をしたい人など、ニーズに合わせてできる限り、個別の対応がなされている。 | | |
| 2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 18 | 38 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 家族の希望・要望を取り入れ、ケアマネ・担当者が、本人の気持ちをくみ取り、話し合って介護計画を作成している。ご家族が忙しく話し合いに参加できないときは電話などで尋ね、計画作成に参加していただいている。職員のアイデアとご家族の希望で「おしゃれをし、身ぎれいにする」が実践されており、入居者はとても身ぎれいにしておしゃれを楽しんでいて、雰囲気がとても明るく、一人ひとりの表情もまた明るい。 | | |
| 19 | 39 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 状況変化によっては、計画の有効期間にかかわらず、見直しをしている。転倒などが続き計画変更するときは、家族にまず連絡し、要望などを聞いた上で主治医に連絡相談し、会議を経て計画を見直すことを行っている。 | | |
| 3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 20 | 41 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 在宅の家族介護の軽減を目的として地域の介護を必要とする人の支援をしている。ショートステイを利用していただけよう、空きベッド利用ではあるが、条件に合致した時は対応ができるようになっている。また中学校の職場体験学習の場を提供し、入居者と中学生がふれ合える場も提供している。 | | |
| 4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 21 | 45 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時に説明し、併設の診療所をかかりつけ医として、主治医が2週間に1回往診を行い健康管理が行われている。かかりつけ医に健康状態等を毎日報告し、それに対する指示も得ているなど、医療については入居者も家族も安心できる環境である。他の医療機関の受診が必要になった時は、家族に連絡して、職員が受診介助を行っている。重度の方の対応も行われている。他の医療機関をかかりつけ医とすることもできる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|--|---|-----|----------------------------------|
| 22 | 49 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居者が重度化した場合の対応について、話し合いが行われている。家族の希望にはできるだけ、柔軟に対応している。昨年も家族からの相談があり、看取りの支援を行った。今後も希望があれば主治医(権頭クリニック)と必ず相談し、状態変化に備えて準備するなど、家族と密に連絡を取り合い支援することができる状態である。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 23 | 52 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 一人ひとりのプライドを大切に、入居者が自分に誇りを持って、日々良い気分で暮らせるように、清潔な身なりや女性としてのおしゃれができるよう支援している。「もやい便り」に記載される写真も家族の了解を得ている。排泄や下着のはき替えなどは、職員がさりげなくトイレへ誘導し、部屋で人に見られないよう衣類の交換がなされ、また、個人記録も大切に保管されている。 | | |
| 24 | 54 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 自分の言葉で、こうしたいとはっきり希望される入居者へは、ホームや職員のきまり、都合を優先せず、散歩に付き添ったり、美容院へ一緒に行ったり、お化粧を手伝ったりするなど、できるだけ希望に添えるようにしている。入居者の希望に添った、細やかな対応がなされている。 | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 25 | 56 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | メニューは入居者みんなで考え献立を決めている。入居者と職員が一緒に準備し、調査当日の昼食はお好み焼きであった。みんなのテーブルの上に鉄板がおかれ、入居者がボールの中の具を混ぜ、みんなで焼いたお好み焼きと、巻き寿司も上手に巻いて、お皿につぎ分けおいしく食されていた。一人ひとりのお皿の下に敷かれたランチョンマットは入居者手作りの作品で、とても可愛らしく、食事を楽しむ工夫がなされていた。誕生日には好きな食べ物を準備している。 | | |
| 26 | 59 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 2日に1度の入浴となっている。一番風呂が好きな人は一番に入浴したりしている。入浴は入居者と職員との楽しい会話の時間ともなっている。会話の中の入居者の思いや要望に耳を澄ませ、その思いはその後のケアに生かしている。入浴日に入浴したかどうかはきちんと記録されている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|--|--|-----|--|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 27 | 61 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 回覧板を持って行く人、配膳でつぎわける人、犬の散歩をする人、ベンチで犬と遊ぶ人、買い物に行く人、掃き掃除する人、魚のさばき方を職員に教えてあげる人など一人ひとりの思いや家族の希望によって、さまざまな楽しみや役割、気晴らしが行われている。ホームで飼っている犬はみんなに可愛がられ、入居者はそれぞれが以前飼っていた犬の名前をおもいおもいに呼ぶなど、昔を思い出しく楽しんでいる。 | | |
| 28 | 63 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 日常的に散歩をしている。お墓参りを希望する入居者には、家族と一緒に職員も付き添っている。家族の迎いで教会の礼拝に出かけたり、外食に出かけたり、地域の「黒崎まつり」には浴衣を着て参加した入居者もいる。「その人らしく、あるがままに」の理念に基づく外出支援が行われている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 29 | 68 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関には鍵がかけられている。理由は、以前不審者が入り込んできたことがあったため、家族の希望もあり防犯のためにカギをかけるようにしている。入居者が内側からカギを外すこともできる。入居者が散歩に行きたそうな素振りをすれば、できるだけその時の気持ちに添うように、職員と一緒に外出している。 | | |
| 30 | 73 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回、防災計画に基づき訓練を行っており、災害対策マニュアルも備えている。消防署はすぐ近くにあり安心できる。4月の訓練では町内会長さんや地域の方5名の協力を得て実施された。緊急時の連絡網は作成されているが、全職員が周知するまでには至っていない。火災など災害時に迅速な対応ができるよう、地域の方々の協力を得て11月に訓練を実施する予定である。 | | 火災等災害に対応するため、地域住民の皆さんにも引き続き協力を仰ぎ、緊急時の連絡網は掲示するなどし、全職員の目につきやすくする工夫が望まれる。また、職員の役割分担を明確にし、全員の避難にどれだけ時間を要するかなどを助案する訓練を実施されることが望まれる。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 31 | 79 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養摂取については、献立をたて管理栄養士にチェックしてもらうなど、入居者の状態に応じて対応している。水分が不足しないように、水分摂取量のチェックが大切であることは充分認識して対応しており、主治医から必要と指示があった入居者について水分チェックを行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 32 | 83 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間には、皆がよく知っている懐かしい童謡が適度な音量で流れている。入居者は体操したり会話をして楽しそうに過ごしている。食事時になると、おいしそうな匂いがそこかしこに漂い食欲が自然に湧いてくる。廊下や居室の入口には、名前や写真が大きく貼られ、自分の顔を写真で見えて安心されるよう工夫している。Aユニット、Bユニット同じように2匹の室内犬がいて入居者を慰め、それぞれ飼っていた我が家の犬の名前で呼ばれ、とても可愛がられている。 | | |
| 33 | 85 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 「その人らしく、あるがままに」の理念そのままに、ホーム内でも以前の生活を継続している。居室はきれいであり、それぞれの好みや価値観によって、気持ちよく住まわれている。使い慣れた鏡台やタンス、息子からプレゼントされた椅子にかけ、気分よく過ごされている。どの部屋もカレンダーや家族の写真、ご自身の一番若くきれいだったころの写真などが大切に飾られていた。 | | |